

# 地域と関わる園の試み（3）

## ーアーティストと協同することを考える①ー

○中島佑太（認定こども園清心幼稚園） 栗原啓祥（認定こども園清心幼稚園）

### I. 問題と目的

これまでの研究で、研究対象園（以下、清心）近くに在住するアーティスト、中島佑太（以下、中島）と同園が協同する保育実践では、中島と幼児が「やりとりそのものを面白い対話」の中で、既成にとらわれない創造的な活動を展開し、多様な関わり方を拡張していると確認された。しかし、創造性が拡張していくプロセスにおいては、中島と保育実践者間で度々疑問や違和感が起こる一方、その異質さが、両者の主体的な対話を深め、活動の継続につながるための要素であると示唆された<sup>1</sup>。

アーティストとの協同に関する保育研究の動向は、音楽や造形表現活動等における保育実践報告、保育方法、環境構成、保育者の役割や専門性など多く見られるが、アーティスト側の視点からの研究はほとんどない。そこで本研究では、個別の保育施設に関わる個別のアーティストが、アーティストとしてどのように意識変容してきたか、中島の活動履歴等から検証し、アーティストが保育施設と協同する際に抱える課題と可能性を検証することを目的とする。

### II. 方法

対象園：幼保連携型認定こども園清心幼稚園

時期：2012年1月から2017年12月。中島が清心に関わり始めたのが2012年1月からであり、この年から6年間にわたる期間を抽出する。

手順：中島の活動履歴とプロフィールの変遷を、清心との活動とそれ以外の活動とで時系列に整理して作成し、分析資料とする。また、中島がインターネット上に発信してきた活動記録<sup>2</sup>を、編集可能な性質にも配慮しながら、ここではアーティストの公の記録と捉え、参照資料として分析することにした。

### III. 結果と考察

以下の4点が指摘できる。

#### ①保育実践者・保護者との関係構築と違和感を受容

6年間にわたる活動の中で、SNSも活用し保育実践者とコミュニケーションを図るようになった。また、保育時間以外は職員室にいて、保育の振り返りを一緒にしたり情報交換したりする機会が増えた。また困難なことが起こった際には互いに協力し合い解消する場面や、保育実践者からの要請で保育の補助に携わったり、保護者会の依頼でワークショップ（以下、WS）を協同企画する機会も起こってきた。保育実践者・保護者との関係構築や相互理解が違和感を受容させた。

#### ②幼児との対等な関係とWSへの危機感が生まれる

中島は当初、幼児とWSを通して関わることに苦手意

識があった。しかし、造形活動にとどまらず、「遊び」として拡張するWSの有効性は、他にはない特色であること、また、幼児の習性や特性、個別の資質を知っていくうちにその親和性に気づき、幼児との対等な関係を構築した。同時に、中島の作品制作手法としてのWSが確立した。一方、アーティストの作品として発表される時、WSを共に活動した幼児の映像や写真が使用され、アーティストの作品に組み込まれ、幼児の行為が搾取されていく構造と、昨今のアートシーンの中でもWS自体が相当数実施され消費されていく危うさに、強い危機感を抱くようになった。

#### ③子どもを通して社会の課題とつながる

清心の卒園生の要望により小学生向けのWSの機会を清心に設けたり、地元で新しく開館した美術館の展覧会「表現の森 協働としてのアート（2016）」に出席し、地域の公営団地周辺に住む子どもたちと交流したりする中で、現代の子どもたちが置かれている状況の複雑さ、子どもの貧困や格差の増大など、個々人が抱える諸問題があることを知った。同時に保育関係の研究会や保育実践者との交流も増え、子どもの視点に立ち、アーティストとして社会にどのような問いを投げかけることができるのかと、考えるようになった。

#### ④アーティストの質を問うこととアーティストの意義

アーティストがアーティストとして自称し続けるためには、アーティストの質向上も問われる。しかし、アーティストが園外でのアーティスト活動や作家性を貫きながら、幼児や保育実践者と協働しようとする時、時には困難さも伴う。困難さにも向き合い試行錯誤する中で、中島は自身の活動にとって、園での活動が園外の活動と同等であることに気がついた。それはアーティストが園内の活動においてもアーティストである意義を獲得したといえる。その結果、日本各地の公立美術館との子ども向けのWSなど活動の幅が増え、アーティストとしてのキャリアアップにつながった他、園の活動の幅も広がった。

### IV. 課題

6年間にわたる協同のプロセスが、アーティストの意識を変容させ、それが保育活動と作家活動の質の向上にも寄与していることが明らかとなった。今回は個別のアーティストの事例に限られているので、今後は他のアーティストとの協同についても検討していきたい。

1 栗原啓祥・中島佑太（2017）地域と関わる園の試み（2）-アーティストと対話する保育実践に着目して-、日本保育学会第70回大会要旨集、1229

2 中島佑太フェイスブック <https://www.facebook.com/yuta.nakajima.376>  
中島佑太公式ブログ <http://houseof.exblog.jp/>（いずれも情報取得2018/1/20）